

## NHK 放送研修センター 日本語センター

● 広瀬修子

4月初め、東京世田谷の日本語センターには毎年、緊張した顔の若者達が集まってくる。およそ2ヵ月間、NHKのアナウンサーとしての基礎トレーニングを受ける新人たちである。

(財)NHK放送研修センターは、主としてNHK職員の研修を担当している団体で、日本語センターはそのアナウンサー部門である。

NHKのアナウンサーは、大正14年の放送開始以来80年余りにわたり「話しことば」で情報を伝え

てきた。その経験をもとに日本語センターは、職員研修以外にも、社会の様々な場面で役立つ「話しことば」のコミュニケーショントレーニングを行っている。

ここでは日本語センターが行っている「話しことば」や「朗読」のノウハウの普及活動について紹介したい。

日本語センターの講師は、全員がNHKアナウンサーである。NHKから出向している現役のほ

か、退職したアナウンサーなど、総勢では50人余り。そのコミュニケーショントレーニングの基本には「放送」がある。

「放送」によって伝えられる情報は、●あらゆる分野について、●お年寄りにも子どもにも分かりやすく、●素人にも専門家にも的確に伝わらなくてはならない。●しかもたった1回話すだけで。●一方通行で。

「話しことば」は音で伝えることばであり、話した瞬間に消えてしまう運命にある。

だからアナウンサー達は情報を取捨選択し、整理し、組み立てを考え、メッセージがより良く伝わるように工夫し、声に出している。実は、新人アナウンサーの研修も発音・発声だけでなく、中心はこの「情報を分かりやすく的確に伝える力」の育成なのである。

日本語センターでは、このノウハウを使い、年間を通して様々な「話しことばセミナー」を開いている。

ほぼ常設で「日本語センタースクール」が世田谷、渋谷、新橋の

3ヵ所で開かれている。ビジネスマン向けや学生向けのほか、発音・アクセントなど基礎的なトレーニング科目もある。

ビジネスの世界では、スムーズな情報伝達が業績に直結する。ビジネスコミュニケーションセミナーも毎月開催されているが、各企業や団体は個別に社員研修の相談に来ている。その場合は、それぞれの課題に従ってカリキュラムはオーダーメイドになる。

このほかユニークなのは「通信添削」講座。受講者が課題をテープに録音すると、講師のアナウンサーが直接、声で添削して送り返してくれる。自宅にいて何時でも受けられる講座で、これまでの受講者は11万人を超えているという。

放送関係者の育成も活動の柱の一つ。各種セミナーには民放、CATVのアナウンサーのほか、テレビに出る交通情報担当者、気象予報士も参加している。

ここで、今もブームが続く「朗読」にも触れておく。趣味やボランティアで「朗読」を学んでいる

人は多い。日本語センターの講習には年間、のべ5千人が参加する。最近では退職時期の団塊の世代の男性の姿も目立つ。「通信添削」や「スクール」のほか、全国をまわる「巡回セミナー」を心待ちにしている人も多いと聞く。

日本語センターが、いま最も力を入れているのは、教育分野の「話す」トレーニングである。文部科学省後援の「先生のための話しことばセミナー」を毎年2千人の教師が受講している。学校教育では、最近「話す」ことが重視されている。しかし教壇に立つ教師自身は、これまで「話す」教育を受けてこなかった。このセミナーはその隙間を埋める。

「話すこと・聞くこと」の重視は、大学教育にも及んでおり、日本語センターでは京都大学大学院のほか富山大、東海大、明治大、日大、横浜商科大、聖学院大など多数の大学で「話しことば」コミュニケーション講座の講師を担当してきた。

最後に、調査研究の分野では同

じ世田谷砦にあるNHK放送技術研究所と共同で、音声表現の科学的分析やトレーニングメソッドの開発研究を続けている。開発した発音発声の自己トレーニング・ソフトは、「アナウンス実践トレーニング」(CDソフト)として販売されている。

また「人にやさしい放送」を支える人材の育成も行っている。耳の不自由な人のためのテレビの字幕放送のうち、スポーツ中継などの生放送の字幕化に協力している。これは実況アナの話しことばを即座に、簡潔に「リスピーク」し、放送技術研究所が開発した自動音声認識装置で文字にするというものである。また目の不自由な人のために、生放送中に副音声を使って画面に何が映っているかを説明する「画面解説」を担う人材の育成も始めている。

以上、さまざまな分野で「話しことば」やコミュニケーションの最先端の課題に取り組んでいる、日本語センターの活動を紹介した。

NHK 放送研修センター  
日本語センター

(東京都世田谷区砧 1—10)  
TEL：03-3415-7121